

## 被災地の歩みから学んだこと

### ～初任者研修「社会奉仕体験」より～

8月9日(金)の初任者研修は、陸前高田市内でボランティア活動に取り組む予定でした。しかし、あいにくの雷雨で、ボランティア活動は中止となりました。ボランティア活動はできなかったものの被災地の様子を車窓から見学したり、気仙大工左官伝承館の語り部さんや高田小学校の校長先生から、震災当時の様子や復興への歩みについて伺ったりしながら研修してきました。この研修で学んだことを、各学校の実態に合わせつつ、今後の指導に生かしてほしいと考えています。

#### 《 高田小学校を訪問して 》

午前、車窓から被災地の見学をし、午後には、**陸前高田市立高田小学校の木下邦男校長先生**から、



震災当時の様子を語る木下校長先生 H25. 8. 9

被災当時の様子や学校の対応、そして、子ども達の様子について貴重なお話をいただきました。

#### 校長先生のお話から

- ・ 震災後、日常の学校生活の楽しさを味わせたいと考え、全学年による遠足やPTAと連携した高小夏祭りを行った。
- ・ 私たち(小学校教育)がやるべきことは、日々の教育活動を通して、子ども達に「生きる力」を身に付けさせること。そのために、**目標を与え、達成感を味わわせ、夢を持たせること。**

#### 《 研修を通し感じたこと・考えたこと 》

～研修を終えた後の初任者の感想を紹介します～

- ◆ 木下校長先生のお話の中での「特別なことをする必要はない。当たり前のことをしていくことが大切だ。」という言葉聞き、普段の子どもへの指導を考え直しました。当たり前のことを当たり前にできる子ども達を育てることが教員の使命だと改めて感じる事ができました。
- ◆ 今回の研修を通して学んだ震災の本当の姿を子どもたちに伝え、未来を担う「人づくり」を進めていきたいです。

- ◆ 岩手の教員として、この震災の出来事を風化させることのないように子どもたちとともに考え、伝えていけるようになりたいと思います。「未来を担う子どもたち」を育てられるような、岩手の力になるような教師になるためにも、今まで以上に日々の授業や貴重な研修に力を入れ、多くの子どもたちや地域の方との信頼関係を築き、教員としての自分を高めていきたいです。
- ◆ 被災地の方のつらさや、つらくても頑張っていること、その頑張りにも限界があることを感じました。しかし、そのような状況でも高田の方々は笑顔を絶やさず、ボランティアに行った私自身が力をもらい元気付けられました。今度は、私が笑顔を絶やさず、被災地を訪れることが今の私にできることだと思います。
- ◆ これまでの研修の中で最も心に残っている「助かった命に対して夢、希望を与え将来を生き抜く力をつけるのが教師」という言葉どおり、私たちが命を預かっているのだという使命感をもって岩手の教員として子ども達のために日々励んでいきたいです。
- ◆ 写真や動画から、当時の状況のすさまじさを知りました。今後は、早急に学校での避難経路の確認や災害が起きた場合の対処法など、しっかりと準備しておこうと思いました。

